

明治大学黒耀石研究センターシンポジウム

縄文時代早期の 環境変遷と人間活動



—東京湾周辺を中心に—

2019.10.12.土

参加無料

時 間 10:30～16:30

場 所 明治大学駿河台キャンパス グローバルホール (グローバルフロント 1F)

縄文時代の人々は単なる狩猟採集民ではなく、植物資源の管理を行って、集落の周辺に「縄文里山」と言える環境を作りだして植物を利用していた。こうした植物資源の管理は縄文時代前期には確認できるが、それ以前の様相は不明であった。当シンポジウムでは、この数年に東京湾周辺で行った縄文時代早期を対象とする調査と研究の成果を紹介し、縄文時代早期の環境変遷を背景として、植物資源の管理と利用が確立した経緯を検討する。



プログラム

- 10:30～10:40 「趣旨説明」
能城修一 (明治大学黒耀石研究センター)
- 10:40～11:20 「南関東における縄文時代早期の暦年代と古環境変遷」
工藤雄一郎 (学習院女子大学)
- 11:20～12:00 「奥東京湾における縄文海進による海況変遷」
一木絵理 (上高津貝塚ふるさと歴史の広場)
- 12:00～13:00 昼食休憩
- 13:00～13:40 「縄文時代早期の植生変遷と人為生態系」
吉川昌伸 (古代の森研究舎)
- 13:40～14:20 「種実・編組製品からみた縄文時代早期の植物資源利用」
佐々木由香 (明治大学黒耀石研究センター)
- 14:20～15:00 「縄文時代早期における植物資源管理と生業活動」
能城修一
- 15:00～15:20 休憩
- 15:20～16:30 パネルディスカッション (質問への回答)



https://www.meiji.ac.jp/koho/campus_guide/suruga/campus.html